



森から学ぶ持続可能な社会 サス学で豊かな未来づくり!

今年で4年目を迎える三井物産の教育プログラム「サス学」。持続可能(サステナブル)な社会づくりの担い手を育成するESD分野で大きな注目を集めている。総合商社ならではの幅広い事業を生かした「サス学」の学びと、最新イベントの様相を紹介する。

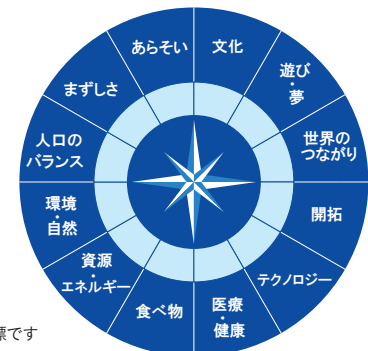
時代の先端をゆく アクティブラーニング

「サス学」は教育の質的転換という時代のニーズを先取りし、「持続可能な未来をつくる力」を育むアクティブラーニングとして誕生した。毎年夏休み期間に、5日間の集中プログラム「サス学」アカデミーを開講。企業の体験学習では異例ともいえる時間をかけ、「食料不足」「都市計画」「環境・エネルギー」といった人類が抱える課題にアプローチする。大人たちがまさに今立ち向かっている難題への真剣勝負。少人数のグループに分かれた子どもたちは、数十年先の地球環境と自分の暮らしを詳細に思い描きながら議論し、解決に向けてアイデアをふくらませていく。

プログラムはインプット、アウトプット、プレゼンテーションの三つから成り、出発点となるインプットから特徴的だ。

「サス学」羅針盤

世の中を構成する12の要素をまとめたもの。アイデアに詰まった時や考えを整理したい時にヒントとして活用。



*「サス学」は三井物産の登録商標です



先生の問いかけによって小さなアイデアの芽が大きく育った

シンクタンクなどの予測をもとにした「未来年表」、テーマに関連する事業に携わる三井物産の社員が語る仕事の意義や問題提起など、さまざまな角度から具体的な情報が伝えられる。アウトプットを導く議論の過程では「羅針盤」(左図)を使用。物事のつながりを俯瞰するツールを取り入れることで、子どもたち自身が解決プランを地に足が着いたものとして練り上げていく。それぞれのプランはポスターや動画にまとめ、総仕上げとしてプレゼンテーションに挑戦。これには「リーダーシップを発揮し、発信する力も養ってほしい」、そんな願いが込められている。

教育・環境機関の表彰(※)を受けるなど、先端事例として高い評価を得てきた「サス学」。新たな試みとして今秋、三井物産が保有する「森」を活用した短期プログラム「集まれ! 未来の森のプロデューサー」が実施された。

森林認証を取得した 森での体験が気づきに

座学が中心の「サス学」を、森の中へ。舞台となるのは、国土面積の約0.1%に相当する広大な社有林「三井物産の森」の一つ、千葉県にある亀山山林だ。適正な森林管理がなされている森での学びは、自然環境はもちろん、防災や資源エネルギー、医療健康など、暮らしを支える様々な分野と結びつく。散策しながら森の恩恵にたっぷり触れ、「森づくりが、世界をよりよくなるカギになる」という気づきを得た子どもたち。丁寧な議論から生まれた「未来の森づくり」のアイデアは、特設ウェブページ(右下URL)に掲載されている。



森での学びを生かし「木づかい運動を広めよう」と頼もしいコメント

※文部科学省「青少年の体験活動推進企業表彰 審査委員会奨励賞」、日本環境共生学会「環境活動賞」(ともに2016年度)

「三井物産の森」とは

全国74カ所、およそ4万4000haに広がる三井物産の社有林のこと。「持続可能な林業」に取り組んでいるほか、恵みにあふれた森の大切さを多くの人に伝えるための森林体験プログラムなどを実施。森林管理が高いレベルであることを証明する国際基準の森林認証「FSC®認証」と、「SGEC森林認証」をすべての山林で取得し、森の維持・管理をしている。今回のプログラムの舞台である亀山山林の面積は47haほどで、1960年から71年にかけて植林したスギやヒノキなどで構成されている。



集まれ! 未来の森のプロデューサー! (10月21・22日開催)

主催:朝日新聞社 企画・運営:ネクスファ
協賛:三井物産 協力:三井物産フォレスト

2日間のプログラムに参加したのは小学4年生から6年生の27人。初日は森林散策や間伐見学など森にまつわる様々な要素をインプットし、2日目は豊かな「森づくり」を考えるグループワークに取り組んだ。

たちの足元にまで地響きが届いた。午後は場所を移し「君津亀山少年自然の家」でグループワーク。フェルミ推定(※)に挑戦し、森から伐り出した木1本あたりの値段を考えた。産地や木の種類に加え、人件費や輸送費などの条件をじっくり話し合う子どもたち。日頃考える機会のない事柄を話し合う面白さに議論は白熱。満足顔で初日のプログラムを終えた。
※正確な値や数量の調査が難しい事柄を論理的な推論で試算すること。



「木を伐る時は、切り込みを入れてから」と森の達人が解説

経験を生かし未来のリーダーに

三井物産 環境・社会貢献部 菊地美佐子 部長
皆さんは今回、自分の意見を伝え、相手の意見も受け入れながら一つの企画を生み出しました。社会に出てからも、こういう場面がたくさんあります。2日間の学びは、大切なスキルを身につけるための第一歩です。今後もこの経験を生かし「未来につながる社会をつくり出す力」を鍛えていってください。

2日目 未来の森を考えよう

2日目の会場は朝日新聞東京本社。前日に見聞した情報を生かした「2030年の森」をプロデュースするため、六つのチームに分かれて話し合うワークに取り組んだ。これは「少子高齢化の地方都市」「宇宙都市」「メガシティ」から一つを選び、それぞれの都市が2030年に抱えている課題を解決するための「森のプランづくり」に挑戦するというもの。アイデアはポスターとチラシにまとめ、来場者に向けたプレゼンテーションにも挑戦した。主体的に取り組んだだけに、発表者の声には熱がこもる。心おどるアイデアが凝縮された「2030年の森」が次々に披露され、全チームに大きな拍手が送られた。

解を導くプロセスに成長がある

「サス学」 杉浦正吾 先生
「森」のフィールドワークを素材に、正解のない課題に取り組んだ子どもたち。個々に思い描いた自由なアイデアと自分なりの意見を、グループ作業で最適解に磨き上げていくプロセスは、見ごたえ充分でした。この経験は一生の糧になるはず。雨の中、お疲れさまでした!

グループで話し合うと
考えが広がって面白い!
普段できない体験や発表に
ワクワクした

子どもたちの声

森の中で過ごす
感じがいいと感じた!

学校ではやらないような
勉強ができたと思う

ただ答えを出すだけでなく
そこまでの理由と道筋を
考えるのが楽しかった

プレゼンテーション

「こんな森をつくりたい!」 特設ウェブページで公開中

子どもたちは6チームに分かれ、三つの都市における森づくりのアイデアを発表。先生や保護者を前に、個性豊かなコンセプトを披露した。プレゼンテーションの詳細は、特設ウェブページで公開中。



詳しくは
<http://www.asahi.com/ad/clients/chikyuu/program/susagak/>
スマートフォンはこちら



三井物産株式会社 www.mitsui.com